

オンライン大学における 学生間・教職員とのつながり感の形成

米 山 あかね¹

1. 研究の背景

コロナ禍に緊急避難的に開始された通学制大学のオンライン授業は、感染状況が落ち着いて以降、一部の科目で継続されている状況である¹⁾。コロナ禍中にメディアで取り沙汰された通学制大学の各種問題に対し、文部科学省は「オンライン等を通じた遠隔授業の実施のみで全てが完結するものではなく、豊かな人間性を涵養し、人格の完成を目指す上では、直接の対面による学生同士や学生と教職員の間的人的交流も重要な要素」であるとし、「こうした観点から、大学等における学修の充実を図るためには、多様な人々の関わる授業や、少人数のグループワークによる質の高い学修など、相互に切磋琢磨することのできる環境を整備することが重要であり、その土台として、学生の円滑なコミュニケーションを促していくこと」（下線は文部科学省による）が求められるとしている²⁾。本稿ではオンライン大学であるサイバー大学の必修科目「スタディスキル実践」で行った、学生同士や学生と教職員の間交流の実践について報告する。

2. 研究の目的

インターネットで全ての授業を行うサイバー大学は、コロナ禍において特段の支障もなく従来通りに授業を行うことができていたが、学生数の増加と主に10代・20代の若年層である専業学生の増加率が顕著となった³⁾。開学当初の2007年頃、サイバー大学は一般的な通信制大学と同様、社会人学生が大半を占めていたが、その学生層に変化が生じていると言える。人格的に確立していると考えられる社会人が在籍学生の大半を占めていた頃に対し、以前であれば通学制大学に通っていたような若年層も入学するようになった現在、人格形成や人間性の涵養のために学生同士や学生と教職員の間交流の機会を提供することが重要だと考えられる。

¹ サイバー大学 IT 総合学部・准教授、インストラクショナルデザイナー

3. 「スタディスキル実践」と学生間・教職員との交流

3.1. 「スタディスキル実践」の科目の目的

「スタディスキル実践」は教養科目のゴールとしてカリキュラム上設定されている必修科目である⁴⁾。自身が教養を身につけた過去の体験を振り返り、それをテーマとしてプレゼンテーションを行い、学生同士でプレゼンテーションを視聴した上で他の学生とディスカッションをし、卒業研究科目であるゼミナールの準備を整えることを目的にしている。プレゼンテーションはPowerPointを使用し、LMS（学習管理システム）の「コンテンツ制作ツール」を用いて録画する演習課題だが、プレゼンテーションを録画する経験は多くの学生には無いため、学生の課題に取り組む負荷が比較的高い授業となっている。

3.2. Zoomによるオンライン交流会

演習課題の負荷が高めなことから、科目で設置されている「Q&A」掲示板への質問投稿や、担当教員チームへのメール相談も活発に行われているが、即時的に質問や相談が可能な場として、2022年度秋学期よりZoomを用いたオンライン交流会の開催を開始した。オンライン交流会は、相談や質問、学生同士や教職員との交流のほか、ゼミナールへの準備を整えるという本科目の目的も踏まえ、ゼミナールに関する情報提供や情報交換の場としても位置付けている。2023年度春学期は、卒業生にゼミナールでの体験談を話してもらい、ゼミナール担当教員にもゲスト参加いただく回を、両者のご厚意により設けることができた⁵⁾。2023年度春学期と2023年度秋学期の開催概要を表1・2に示す⁶⁾。2学期とも、リピーター（複数回参加者）の数が延べ参加者数の半数程度になった。

表1 交流会の開催概要（2023年度春学期）

開催日時	事前 申込者数	参加者数の概算 ()内はリピーター	アンケート 回答者数	開催形式、テーマ
4月25日(火) 20:00~21:00	12	8(5)	7	・ブレイクアウト ・課題や授業について
5月12日(金) 20:00~21:00	16	12(4)	9	・ゼミ体験談 (ゼミ教員ゲスト参加) ※ブレイクアウトせず ・卒業研究について
6月13日(火) 20:00~21:00	5	4(3)	3	※ブレイクアウトせず ・卒業研究について
計	33	24(12)	19	

表 2 交流会の開催概要 (2023 年度秋学期)

開催日時	事前 申込者数	参加者数 ()内はリピーター	アンケート 回答者数	開催形式、テーマ
10月24日(火) 20:00~21:00	11	7 (5)	6	・ブレイクアウト ・課題や授業について
11月7日(火) 20:00~21:00	13	10 (5)	7	・ゼミナール体験談 +ブレイクアウト ・卒業研究について
11月29日(水) 20:00~21:00	7	7 (3)	6	・ブレイクアウト (2回) ・卒業研究について
計	31	24 (13)	19	

3.3. 簡易的なチャットルーム「オンライン喫茶室」

前項で述べたオンライン交流会は、教員が授業運営期間中に採点や添削指導と並行しながら開催する必要があり、約2ヶ月半の授業期間の中で開催回数は3回に留まる状況にあった。この状況に対し、より簡便な形で交流の機会を増やすため、2023年度春学期より「オンライン喫茶室」と呼ぶ簡易的なチャットルームを設置・開催した。チャットルームといっても、GoogleチャットやSlackといったチャットのサービスを使用するわけではなく、学生の参加やアクセス制限のしやすさから、学習管理システムの科目ページから学生や教職員のみアクセスできるGoogleドキュメントへのリンクを張る形を採用した。学生は特定の設定を行う必要がなく、学習の流れからシームレスにアクセスできる。Googleドキュメントは開催期間のみ学生の編集が可能となるように設定を行い、冒頭部分に簡単なルール説明を配置し、学生と教職員が短文を書いてコミュニケーションを取れるようにした(図1)。2023年度春学期と2023年度秋学期の開催概要を表3・4に示す。

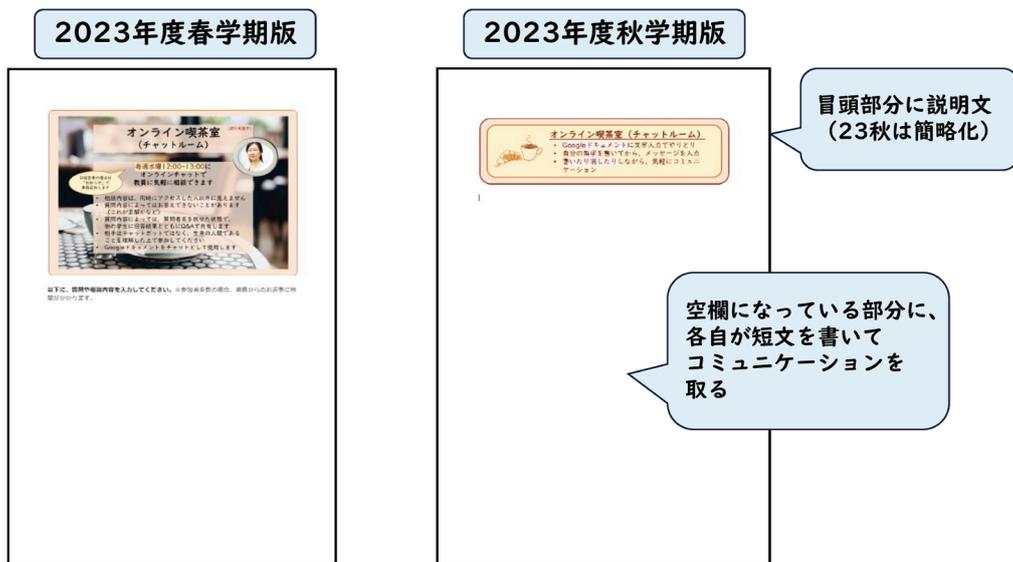


図 1 チャットルームの記入用 Google ドキュメント⁷⁾

表3 チャットルームの開催概要 (2023年度春学期) (参加者0名は除外)

No	開催日時	参加者数	リピーター数	備考
1	4月19日(水) 12:00-13:00	2	2	学習に関する個別相談
2	4月26日(水) 12:00-13:00	2	1	
3	5月10日(水) 12:00-13:00	2	1	
4	5月17日(水) 12:00-13:00	3	2	
5	5月24日(水) 12:00-13:00	2	1	
6	5月31日(水) 12:00-13:00	3	2	
7	6月7日(水) 12:00-13:00	3	3	
延べ参加者数		17	(ユニークユーザ数:8)	

表4 チャットルームの開催概要 (2023年度秋学期)

No	開催日時	参加者数	リピーター数	備考
1	10月11日(水) 12:00-13:00	2	1	学習に関する個別相談
2	10月18日(水) 12:00-13:00	4	3	
3	10月25日(水) 12:00-13:00	3	3	
4	11月1日(水) 12:00-13:00	4	3	学習に関する個別相談
5	11月8日(水) 12:00-13:00	3	3	
6	11月15日(水) 12:00-13:00	4	4	
7	11月22日(水) 12:00-13:00	4	4	
8	11月29日(水) 12:00-13:00	3	3	インストラクターも参加 (数字に含めない)
延べ参加者数		27	(ユニークユーザ数:8)	

チャットルームでは、課題の取り組み方に関する質問への回答や教員からのアドバイスだけではなく、通学制大学の研究室のように、課題で苦労したことや、学生の趣味や興味のあること、自分の履修したお勧めの科目、本学での勉強会やコミュニティサイトでの交流、対面(オフライン)での交流、参加予定の外部の研修プログラムについてなど、科目や大学に関わることを主軸としながらも、雑談を含めた幅広い話題について少人数での密なコミュニケーションを行った。また、特に開催開始頃に、学習に関わる個人的な相談を受けることがあり、教員だけではなく他の参加学生からのリアルタイムでの共感やアドバイスを受け、その後も学習を継続することができた学生もいた。

なお、延べ参加者数は2023年度春学期よりも2023年度秋学期の方が増えているが⁸⁾、ユニークユーザ数は同じ8名となっている。両学期ともに、リピーター(複数回参加)の学生が定期的に参加してくれており、特に2023年度秋学期は後半回の参加者がほぼリピーターだった。

4. アンケート調査の結果

4.1. オンライン交流会のアンケート結果

2023年度春学期と秋学期に、オンライン交流会に参加した計48名にアンケート回答を依頼し、回答者数は38名（回答率79.2%）だった。参加した満足度に関しては、50%の学生が「非常に満足」、42%が「満足」を選択し、大半の参加者が肯定的な回答を行っている（図2）。

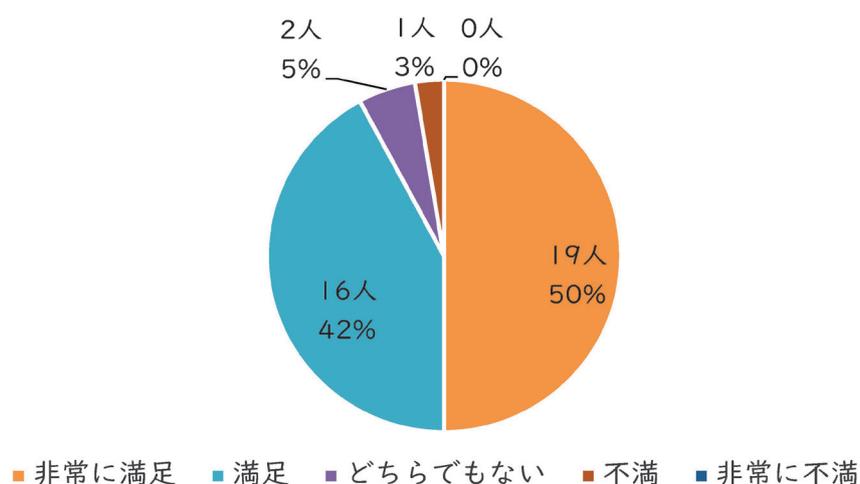


図2 オンライン交流会に関する満足度 (n=38)

フリーコメントでは、初回開催時は「慣れなかったので話すのが難しいと思った」や「周りの出方を伺ってしまったが次回は積極的に話したい」という回答も見られたが、以降は「教員と学生と生で交流できてモチベーションが上がった」「学生同士で学ぶ想いを聞いた」「自分の話もできてとても良かった」「オンラインでも他の学生や教員と対面で話せる機会がありがたい」「学生と教員と非同期ではない生の声を聴くことができ満足した」というリアルタイムのコミュニケーションへの肯定的なコメントが多数寄せられている。ゼミナールをテーマとして扱った回では、「ゼミナールの選択に悩んでいたので良い時期に開催してもらえた」「ゼミナールについて知らなかったのでとても貴重な時間だった」「ゼミナール受講の全体の流れをイメージすることができた」「ゼミナール体験談が具体的でゼミナールの受講が他人事ではなく身近に感じられた」等のコメントがあった。一方で、10名近い参加者数でありながらブレイクアウトルームにしなかった回に関しては、質問も活発ではなく、「(教職員からの) 一方通行のコミュニケーションだった」や「他の学生と交流しなかった」というコメントがあった。人数に関しては、7名の参加者の開催回（ブレイクアウトルームで2部屋に分割した回）では「少人数だったので話しやすかった」とあった一方、5人を下回り分割しなかった開催回では「もう少し人数が多いと交流が楽しくなった」というコメントがあった。

4.2. チャットルームのアンケート結果

2023年度春学期と秋学期に、チャットルームに参加した計16名にアンケート回答を依頼し、回答者数は8名だった(回答率50.0%)。質問項目を表5に示す。

表5 チャットルーム参加者へのアンケート調査項目(2023年度春学期・秋学期)

	質問項目
Q1	チャットルームに参加してみて、良いと思った点
Q2	チャットルームに参加してみて、改善が必要だと思った点
Q3	チャットルームは、Zoomでの交流会やオフィスアワー、Cloud Campus内のコースに設置しているQ&Aなどと比べ、どうだったか。その違いについて、気づいた点
Q4	もし他の科目でも同様の形でチャットルームが設置された場合、参加したいか
Q5	Q4で回答した理由
Q6	そのほか、お気づきの点

Q1(良いと思った点)はQ3のように交流会やQ&Aと比較して良い点を説明しているコメントもあったため、併せて記載する(以下の下線による強調は筆者による)。

まず、「①他の学生と交流出来た ②先生と交流出来た ③他の学生のやり方や進捗が学べた ④先生に進め方の疑問点を質問して明確になった」「畏まった感じがしなかったので敷居の低さがある」「私的な話もすることができて、和むことができた。(中略)日常会話の機会を得る場として、非常に良かった。交流会などは、その都度テーマが決まっているので、あまり私的な会話をする時間が取れない印象がある。」など、交流ができたことや他の学生の進捗がわかったこと、敷居の低さ、私的な会話のしやすさについてコメントが寄せられた。

次に、「①動画で出てくる先生が実在していて、コメントに寄り添ってくれる温かさ・人間味を感じられたとき。②他の学生がいることは頭では理解していたが、どこか遠く感じていた。しかし実際に存在を確認できて、同じ課題に対して同じような難しさを感じているという感想を共有しあったとき。」「先生を近くに感じることができました。優しさを直に受けることができ、よかったです。そして学校で初めての仲間の出来、頑張っている近況を教えてくれたり、とても有意義な時間を過ごせました。授業の質問もしやすい雰囲気でした。毎週楽しくて、待ち遠しかったです。」(原文ママ)「Zoomの交流会は画像無し、音声無しの参加でも先生の話聞いていれば良かったが、チャットルームは当然のことながら、チャットを入力しないと会話が成り立たず、そのお陰で、入退室時も必ず挨拶があって良かったです。学生同士の発言も、相手のお名前を入力して呼びかけるので、お名前を覚えることが出来、交流している実感がありました。」といった、極端に情報が制限された中での交流でありながら、教員や学生の存在を実感し、温かさや優しさ、人間味や質問しやすい雰囲気が感じられたこと、初めて学友を得られたこと、挨拶し名前を呼び

かけることで交流している実感が得られたことが述べられている。

文字情報による交流に関しては、「最初から ZOOM で行う音声での受け答えをするよりも、今回のような文字を介しての意見交換はお互いの、外観や声のイメージを度外視した、素直な考えを述べ合うためにもコミュニケーション的には効果的だったと思います。そうして何回か意見交換をしたうえで初めて ZOOM などのオンライン会議に移行していれば良いのかもしれない。」「チャットは、うなずきや笑い一つとっても活字にするため、相手の反応が分かりやすかったです。Q&A は、発信してから回答が来るまでに、何人に見られているかもわからず、また、回答が返ってくるのもいつになるのか分からないので、変な質問や書き込みをしてしまったのではないかと不安になる場合もあり、その点チャットルームは、即答して頂けるので、ありがたかったです。」「Zoom と比べると、人見知りで発言することが苦手な人たちからすると、文字でのやり取りなので、とっつきやすいと思う人も、いるような気がします。(中略) 雰囲気を大事にしてくださり、顔文字などを利用してくれたので、とても温かい雰囲気の中でやり取りでき、楽しかったです。チャットルームのお陰で、交流会でも、米山先生がいるという安心感から、いつもより少し緊張が和らいで、話すことができたと思います。」など、外見や音声を気にすることなく素直に考えを述べ合えること、活字にすることで反応が分かりやすいこと、顔文字の利用により温かい雰囲気が感じられること、またチャットルームを足掛かりとして Zoom の交流会に安心して参加できたことについて述べられている。文字情報に関しては、「相手も自分もマイク、カメラオフで参加できたので思っていることを吐き出すことができたこと。」や「文字情報だけで交流するので、効率的に情報を伝えるにはどうすれば良いのか考える必要があり、またその点が面白いと感じた」と、自己開示のしやすさについてや、文字情報で効率的に伝えることを考える面白味についても述べられている。

Q2 (改善が必要な点) については、「人数が増えると難しいのかなと感じました」「仕様の問題ですが、過去の発言を消しながら行わないと、長くなってしまうので、その消す作業が少し煩わしく感じました」というコメントがあった。一方で、この消す作業に関しては、「言葉での会話も録音していない限りその場限りなので、この作業がかえって、リアルな会話の様で良かったようにも思います」とも書かれており、後に残らないことがリアルさを感じさせる要因のひとつであることが述べられている。

Q4 (他の科目で設置されたら参加したいか) については、8 名中 5 名が「はい」、残りの 3 名が「わからない」と回答した。「はい」の回答者は、Q5 (その理由) として、教職員や学生とつながりができることや、不安感の払拭、文字情報で交流することへの面白味について述べている。「わからない」の回答者は、困ってない時は参加しなくても良いと思った、共通の話題で盛り上がるか他の科目で想像ができない、他の教職員のナビゲートで参加しようと思うかがわからない、といった回答があった。

Q6 (そのほか) については、「Q&A も Zoom もチャットルームも、全部あるといいなと思います。それぞれに、違うメリットがある気がいたします。」「チャットスペースに米山先生だけでなく TA の方も呼んでいただけると面白いと思いました」「サイバー大学は

全ての授業がオンラインで完結されるため、同じ時期に一緒に学んだ仲間との交流をどのように構築されるのかが課題かと思えます。キャンパスに代わる会場が都内近くにあれば、個人的に時間が作れた時にふらりと立ち寄れると感じました。」などのコメントが寄せられた⁹⁾。

5. まとめと今後の課題

必修科目「スタディスキル実践」で実践した Zoom でのオンライン交流会と、チャットルームの概要をまとめ、アンケート調査結果について見てきた。オンライン交流会のアンケート結果では、「非常に満足」「満足」が90%を超えるという高い満足度が確認でき、特にオンラインであっても対面できる機会のありがたさ・喜びや、ゼミナールに関する情報提供についての肯定的なコメントが多かった。ブレイクアウトルームを利用せずに10名ほどで開催した際は、一部の学生から交流のし難さによる否定的なコメントも寄せられており、「交流」と銘打つならば十分な交流のしやすさを確保する必要性も確認された。

上述のオンライン交流会は本学において多数の科目で開催されているが、チャットルームは本科目独自で2023年度から初めて開始した試みである。学生の参加のしやすさやアクセス制限のしやすさを優先的に考えたため、チャットサービスは利用せずシンプルな Google ドキュメントで学習の流れからシームレスにコミュニケーションをとることができる。アンケート結果では、敷居の低さや私的な会話のしやすさ、教職員や他の学生の存在が感じられ、挨拶や名前を呼ぶことで交流していることの実感が得られたこと、外見や音声を気にすることなく素直に考えを述べ合えること、活字にすることで反応が分かりやすくなること、顔文字の利用により温かい雰囲気を感じられたこと、チャットルームを足がかりに Zoom のオンライン交流会に参加しやすくなること、文字情報だけのため自己開示がしやすくなったこと、文字情報だけで効率的に伝えるために考えることが面白いと感じたこと、その場限りである点がリアルに感じるなどのコメントがあった。これらのコメントから、チャットルームは参加学生にとって、学生同士や教職員とのつながり感の形成に寄与できていることが示唆される。なお、他の科目でチャットルームに参加するかについては、8名中5名のみ「はい」という結果ではあったが、上記の回答結果を考慮すると、特に学習負荷が高くて相談事項が発生しやすく、共通の苦労があり、他者の様子を確認することで安心できるような科目においては、導入を検討する価値があると考えられる。

一方で、履修者数が毎学期500~600人程になる必修科目でありながら、オンライン交流会の参加率は本科目履修者数の4.0~4.5%、チャットルームに至っては1.3~1.5%となった。チャットルームはオンライン交流会との差別化も考慮し、平日の昼間の開催としたため参加できる学生はかなり限定されたが、参加者数が増えると教員側の対応人数も増やす必要性が生じる。今後は平日の昼と夜での交互の開催や土曜開催、参加してくれる運営メンバーの募集なども検討の余地があると考えられる。

チャットルームは教員一人当たりの対応人数に上限があるものの、設定が容易なため、

開催の準備や運営に関する教員の負荷は低く抑えられる。Google ドキュメントを作成して学習管理システムにその URL を登録し、あとは開始日時に学生の編集権限を付与するだけで、誰でも開始できる。アンケート結果から、リアルタイムの交流を求めている学生の反応に触れてきたが、実際には教員にとっても、授業期間中に学生とリアルタイムで気軽に話すことができる機会は、メリットが大きいと考えられる。授業終了後の授業評価アンケートでは、アンケート結果を読み「改善したい」と思っても当該学期の授業は終了してしまっている。また、授業終了後では、途中で学生が「直面していること」が書かれることは少なく、多くの場合は相当前のことを思い出して漠然とした印象が述べられていることが多い。この点に対し、授業途中で定期的に学生と密なコミュニケーションを取ることにより、「何について困っているか」「どう感じているか」を知り、「何を提供すべきか」を考える上での気づきやアイデアを得ることができる。筆者は、今回のチャットルームでの学生との交流によって、授業コンテンツの修正や追加は行わなかったが、学生向けの課題の講評を書く際に、以前よりも、より学生の気持ちを考え、寄り添いながら今後へのアドバイスを書くことができたと感じている。こうしたことは、ただ想像しても実感することは難しいため、やはり教員自身も体験して学生とのつながりを感じながら、授業運営に向き合うことが大切なのではないかと思われる。

注および参考文献

- 1) リベルタス・コンサルティング 『令和4年度 文部科学省委託調査「先導的大学改革推進委託事業」高等教育段階における遠隔教育の実態に関する調査研究 調査報告書』、2023、pp.17-19.
- 2) 文部科学省 『令和4年度の大学等における学修者本位の授業の実施と新型コロナウイルス感染症への対策の徹底等に係る留意事項について（周知）』、2022、p.3.
- 3) 米山あかね 「COVID-19によるオンライン大学への影響 ～サイバー大学の事例から～」『令和4年度 日本通信教育学会 研究論集』、2023、pp.53-54.
- 4) 必修科目のため、毎学期の履修者数は500～600人程になり、提出課題の採点・添削指導を行う教員や、指導の補助を行うインストラクターは、毎学期計10人程となっている。
- 5) 卒業生であり本科目のインストラクターを務める服部かおり氏と、本学の専門科目担当教員の中島俊治准教授、両者のご厚意により交流会にご参加いただき、学生に貴重な情報を提供いただくことができた。また、オンライン交流会運営に関しては、本科目担当教員の方々やインストラクターの方々にご助力いただき、円滑に開催することができた。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。
- 6) 2023年度春学期は、オンライン交流会の参加者数のデータが一部欠損していたため、概算として記載している。なお、表内の「ブレイクアウト」はオンライン会議ツール Zoom の機能「ブレイクアウトルーム」を使用し部屋分けした交流の形式を指す。
- 7) 2023年度秋学期は、記入用 Google ドキュメントのフォーマットを2023年度春学期のものから改良した。2023年度春学期版は、冒頭部分に説明や注意書きを丁寧に記載したために記入ページの半分近くを占めてしまっていたが、チャットルーム参加者が4名を超えると記入範囲が狭くなり交流がし難くなるため、2023年度秋学期版では、冒頭部分に最低限の説明と注意書きを記載するシンプルな形とした。
- 8) 2023年度春学期は、計9回開催を行ったが、そのうち初回と、途中で例外的な金曜日の夜開催の参加者数が0名となった。この2回は表3の中から除外している。参加者を集められなかった原

因は、周知が十分ではなかったことが考えられる。

- 9) 2023年度秋学期は、チャットルームの最終回にインストラクター1名に参加してもらうことができた。それ以外は筆者1名で対応を行った。参加したインストラクターからは、「Zoomで無言になった時の緊張感などがなくて良い」「(教員・インストラクターを含めて)計5名の参加ということで、別々の話題で盛り上がることもあり、それはそれで楽しかった」「Zoomだと服や身だしなみ、背景にも気を使うが、チャットは関係ないので気楽で良い」「Q&Aの回答は緊張感があるが、チャットはその場限りで終わりのため、気楽に話せる」といった肯定的なコメントを受けている。